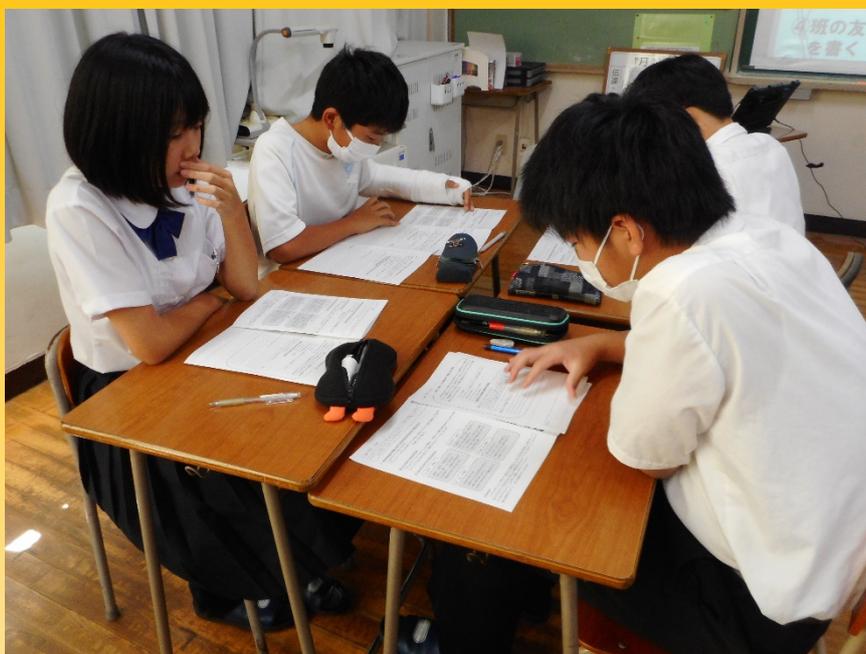
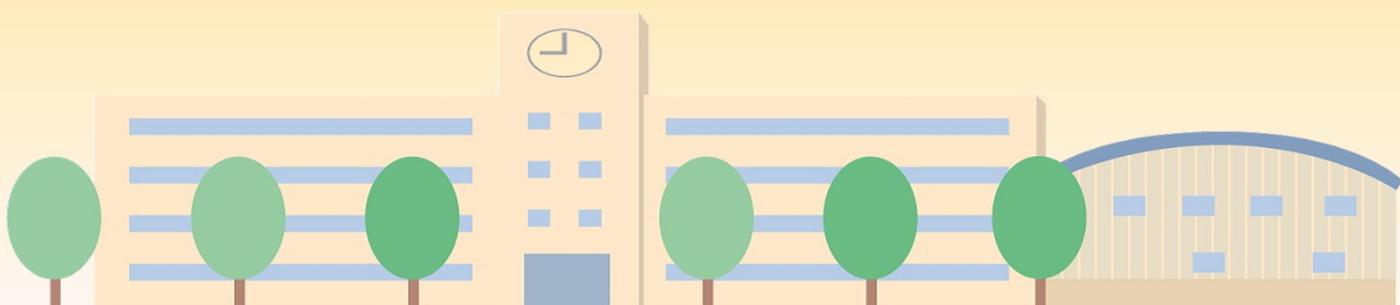


主体的に安全に生きる 児童生徒の育成



令和6年3月

倉敷市教育委員会



はじめに

「こども基本法」の成立について

令和4年6月に国会で可決・成立した「こども基本法」は、憲法及び国際法上認められている子どもの権利を包括的に保障する「基本法」となっており、令和5年4月に施行されました。子どもの権利について、例えば女性の権利、障がいのある人の権利と比べてみると、日本国憲法ではどの権利も基本的人権として保障され、条約では女性差別撤廃条約、障害者権利条約と同じように児童の権利に関する条約に日本は批准しています。しかし、法律の面では、男女共同参画社会基本法、障害者基本法があるのに対し、子どもの権利を保障する基本法はこれまでありませんでしたが、ついに成立となりました。「こども基本法」の目的は、「日本国憲法及び児童の権利に関する条約の精神にのっとり、こどもが自立した個人としてひとしく健やかに成長することができ、将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指すこと」です。

子どもを取り巻く危機

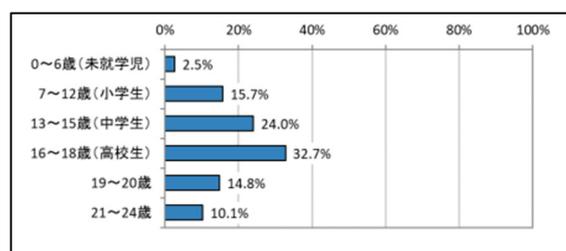
令和4年の全国の児童生徒の自殺者数は514人で、調査開始以来最多を更新しました。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、学校において様々な活動が制限されるようになった令和2年以降大きく増えており、子どもが自らの不安や悩みを相談できず、一人で抱え込む危険性が今まで以上に高まっていると考えられます。

また、性暴力の被害の実態に関する調査では、性暴力被害に最初にあった年齢は高校生、中学生の順に多く、加害者との関係は、通っていた学校の関係者（教職員、先輩、同級生など）が最も多いという結果となっています。性暴力とは体に触る暴力だけでなく、言葉や、情報ツールによる暴力も含まれます。子どもは被害者だけでなく、加害者となる可能性も高くなっています。

児童生徒の自殺者数



性暴力被害に最初にあった年齢



加害者との関係は、通っていた学校の関係者（教職員、先輩、同級生など）が最も多い【36.0%】

若年層の性暴力被害の実態に関するオンラインアンケート及びヒアリング結果
令和4年3月 株式会社 リベルタス・コンサルティング

子どもは権利の主体者の視点から

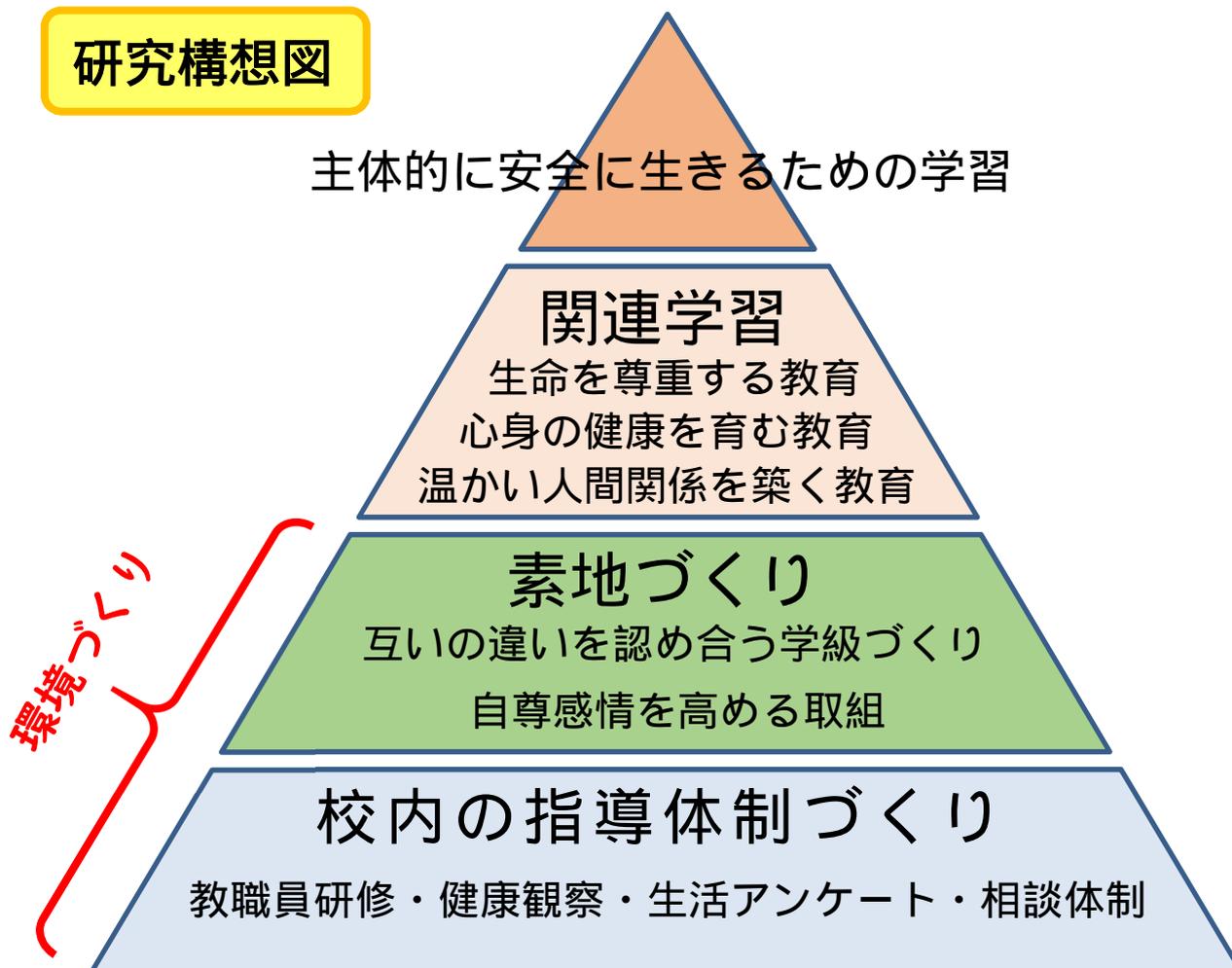
児童の権利に関する条約は、子どもの基本的人権を国際的に保障し、子どもを権利の主体者として捉えています。学校においても、子どもの権利を意識した学習活動が求められます。今回の研究では、校則を取り上げ、権利の主体者である子ども自身が、自他の権利に照らし合わせて適正であるかどうか議論する実践を行った学校もあります。こうした学習を通して、自分の周りにおけるきまりについて、自分事として考えさせることが大切だと考えます。

研究主題

主体的に安全に生きる児童生徒の育成

わが国では平成6年に批准した児童の権利に関する条約を踏まえて、子どもの権利擁護に関する施策の充実が図られており、倉敷市においても次代を担う子どもたちが健やかに生まれ育つまちづくりに向けて取り組んでいます。しかしながら、現在はいじめや虐待、貧困、SNSによるトラブル、デートDVなど様々な問題があり、子どもを取り巻く環境は大変厳しさを増しています。そのような状況において、子ども自身が権利の主体者であることを自覚し、自己についての肯定的な生き方を身に付けることができるようにしていかなければなりません。本研究では、子どもの自己肯定感を高め、自他を尊重する環境づくりを基盤としながら、子ども自身を権利の主体とし、子どもが自他の安全を守るための指導の充実を図ります。具体的には「自分の心の状態を把握する学習」、「不安や悩みを抱えた時の対処法を知る学習」、「SOSを出せる力と他者のSOSを受け止める力を育てる学習」、また「性犯罪・性暴力の加害者、被害者、傍観者にもならないための生命の安全教育の学習」を通して、主体的に安全に生きていくことができる児童生徒の育成を目指します。

研究構想図



学習の基盤は環境づくり

学習の効果を高め、意味をもつためには、学習の基盤となる環境づくり（素地づくり・校内の指導体制づくり）が欠かせないものとなります。また主たる学習に関連した内容を学ぶことで、子どもたちの理解を深め、学習の効果をより高めることが期待されます。



関連学習

「主体的に安全に生きるための学習」に関連する内容は、それぞれの学校で日ごろ実施されている授業や活動においてもたくさんあります。

総合的な学習の時間、特別活動だけでなく日々の教育活動で行われている学習で、本研究のねらいを意識して取り組むことで子どもの学びにプラスになると考えます。

具体的には、「生命を大切にしようとする学習」、「心身の健康を管理し、改善していく学習」、「自分を大切に、他者を思いやる心の育成をする学習」が挙げられます。

内容については、学校や地域、子どもの実態に即した様々な展開が考えられます。

素地づくり

人権教育の理念となる「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」がすべての土台となります。教師自身が様々な違いを認める姿勢を示し、日ごろから継続的に互いのよさを認め合うことが大切です。

人権教育の推進による様々な取組によって、よりよい人間関係をつくり、温かい雰囲気の中で、子どもが過ごせるような環境を整えることが、研究を進めるうえで必要な素地づくりとなります。



校内の指導体制づくり

子どもたちが安全な環境で、互いに認め合い、自分のもつ力を十分に発揮し、安心して学校生活を送るためには、教職員を含めた周りの大人への信頼感が重要です。

そのために困った時にはいつでも、何でも、誰にでも相談できるよう、子どもと教職員の信頼関係づくりに努めなければなりません。また保健室や相談室などを気軽に利用できる場とする校内の居場所づくりをはじめ、子どもにとって安心・安全な学校環境を整えていきます。加えて、教職員が子どもたちの心のサインや言動の変化を読み取り、その子どもの心理状態を見取る感性を高めることや、生活アンケートの活用、教育相談体制の整備も進めていきます。

また教職員研修などにより教職員の意識を共有し、自校の子どもに合った校内の指導体制を、つくっていきます。

予防教育の考え方を生かして

昨年度に引き続き、今年度も予防教育の考え方を生かして主体的に安全に生きるための学習を行っていきます。

問題が起きにくい環境をつくり、すべての子どもが問題に対処したり危険から回避したりできるようにすることが大切です。本研究でねらう、子どもたちに身に付けさせたい力は、主に次の三つです。



自分の心の状態を把握する力

② SOSを出せる力・受け止める力

様々な暴力や有害情報から身を守る力

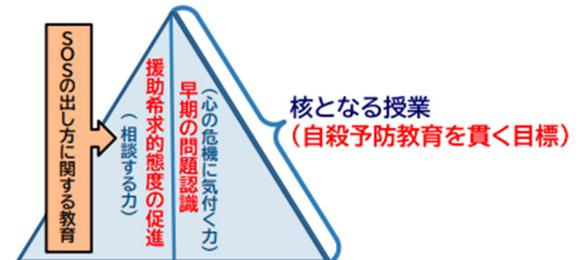
小学生、中学生のそれぞれの発達段階に合わせ、また子どもたちの実態に合わせて学習内容を定め、研究を進めます。併せて安全に生きるための知的理解を深め、共感的に受け止めることができる人権感覚を育てます。

自分の心の状態を把握する力

身に付けさせたい力の 自分の心の状態を把握する力と、 SOSを出せる力・受け止める力は、生徒指導提要に示された自殺予防教育の考え方ともつながります。心の状態を把握し、よりよい対処法を身に付けることを意識して研究を進めます。

ストレスを感じたときの心身の状態を理解し、自分に合う解消法を考えたり、自分の中のもやもやする気持ちを言葉にして伝えたりする方法を発達段階に応じて考えていきます。

学習においては、小学校低学年では表情カードを活用しながら、気持ちを表す言葉にどのようなものがあるか考えるところから始めます。小学校高学年では同じ出来事でも、人によって感じ方や考え方、体への反応が違うことを知り、それを踏まえて自分自身の対処方法を考えていきます。自分の気持ちの状態を認識し、体への反応を知ることが、早期に心の危機に気付くことにつながります。



【生徒指導提要 図 15: SOS の出し方に関する教育を含む自殺予防教育の構造】より抜粋

② SOSを出せる力・受け止める力

子どもが自分で解決できない状況に陥った時に、身近にいる信頼できる人に、SOSを伝えられるようにすることや、自分も相手も大切にしたいコミュニケーションをとること、友達からのSOSを受け止めることができるようにすることを意識して研究を進めていきます。子どもが危機に陥った時に、最初に相談する相手は子どもで、友達の深刻な不調や様子の変化に最初に気が付くのも子どもである場合が多いと言われています。一方、問題の解決方法が分からない場合であっても誰にも相談しない・相談す

る人がいない、どこに相談すればよいかわからないと感じている子どももいます。そこで、相談（SOSを出すこと）が問題の解決方法の一つとなることを学ばせ、誰かに相談することの大切さを考えさせ、そして誰になら相談できるか、相談相手を考えさせることで自分を支えてくれる人の存在に気付かせます。そして役割演技により友達から相談される体験を通して、相談相手の気持ちに寄り添った話し方や傾聴について学ばせることなど、発達段階に応じて様々な学習を展開していきます。その際、実際に相談された時に自分では受け止められない内容の場合は、信頼できる大人へつなぐことを学ばせ、相談ダイヤルなど匿名でも利用できる相談先も大切な知識として知らせます。こういった取組を現在、命の危険を抱えている子どものみならず、すべての子どもたちに対して行うことで、危機に陥っている友達のサインに気付き、適切な対応ができるゲートキーパー（気付き、声を掛け、話を聴き、必要な支援につなげ、見守る人）の役割を果たせる子どもを増やしていきます。

SOSの出し方に関する教育を進めていく上で、教師は日ごろから子どもたちとしっかりと向き合い信頼関係を築き、気軽に相談できる雰囲気や体制を整え、教師自身がSOSを受け止める姿勢を子どもへ示すことも大切です。

様々な暴力や有害情報から身を守る力

生命（いのち）の安全教育は子どもたちを性犯罪・性暴力の加害者・被害者・傍観者にならないために文部科学省が推進しており、令和5年度から全国展開しています。この取組は、子どもたちが生命の尊さを学び、性暴力の根底にある誤った認識や行動、また、性暴力が及ぼす影響などを正しく理解した上で、生命を大切にすることを考え、自分や相手、一人ひとりを尊重する態度等を発達段階に応じて身に付けることを目指すものです。

生命（いのち）の安全教育

- ① 生命の尊さやすばらしさ
- ② 自分を尊重し、大事にすること
(被害者にならない)
- ③ 相手を尊重し、大事にすること
(加害者にならない)
- ④ 一人ひとりが大事な存在であること
(傍観者にならない)

自分のからだや性についての正しい知識を得るための学習、相談の仕方を知るための学習は、性暴力・性被害の早期発見・早期対応につながります。また、生命を大切に、一人ひとりを尊重する態度を身に付けるための学習は、自分の心やからだ・相手の心やからだを傷つけず、困難に対処しながら生きていく指導につながります。

今回の研究では、中学生を対象としたデートDVを主に取り上げます。中学生段階になると、交際関係に発展するような親密な関係を築く子どももいます。しかし、自分と相手との距離感が分からず、嫌だと感じてもうまく伝えられないことがあります。デートDVは交際関係にある2人が対等でない関係であるときに発生しやすい暴力です。親しい間柄でも自分と相手の気持ちを大事にして、相手が嫌がることをしない態度を身に付けさせることが大切です。学習のポイントは、事例などを通じデートDVについて知ることと、よりよい人間関係をつくるために適切な自己表現の仕方を身に付けさせることです。

自分の気持ちを表現できる児童の育成

目指す児童の姿

自分の気持ちに向き合い、素直に自分の気持ちを表現できるようになることで、将来困ったときに柔軟に対応し、乗り越えることのできる児童の育成を目指す。

全体構想

素
地
づ
く
り

<学級経営>

自分も友達も安心して過ごせるように

- ・学級目標の設定
- ・マスターカード
- ・ハート貯金
- ・ありがとうハート
- ・絵本の読み聞かせ



授
業
実
践

学級活動「自分の気持ちを伝えよう」

きもちってなあに？

気持ちを表す言葉はたくさんある。
気持ちは言葉や態度、表情から分かることを知る。

なににこまっているの？

悲しみやもやもやなどの困り感の原因を考えることで、言葉で伝えると気持ちはより詳しく分かることに気付く。



じぶんのきもちをつたえよう

言葉で伝えると相手にきちんと伝わり、助けてもらえたり、話すことで心がすっきりしたりすることに気付く。

成果と課題

授業の中だけでは話す気持ちと気持ちがすっきりすると実感できるまでに至らなかった。しかし授業後は泣いている友達がいると「大丈夫だよ。」に加え、「言葉にしたら力になれるよ。」と声を掛ける児童が増え、気持ちを言葉で伝えることの大切さを児童が理解することができていた。友達がしょんぼりしていると、何に困っているのか原因を考える様子も見られた。誰かに自分の気持ちを話すと心が軽くなった、良かったと感じることができるよう、今後も継続的に指導し、困ったことに柔軟に対応し、乗り越えることのできる児童の育成を目指していきたい。

倉敷市立豊洲小学校 第1学年

本時のポイント

自分の気持ちを言葉で表現することができるようになる。
誰かに話すことで心がすっきりすることに気付く。

学級活動「じぶんのきもちをつたえよう」

嫌だったり困ったりする場面について考える。

- 勉強が分からないとき
- テストで悪い点数を取ったとき
- 上手にできないとき
- 物を壊してしまったとき



言葉で伝えると解決の一步となることにペアサポートを通して気付く。

めことばにしてつたえよう。

嫌だったり困ったりする場면을言葉にし、班や全体で発表する。

- 学校でテストの点数が低い心配
- 学校で算数が分からなくてつらい気持ち
- 家でお兄ちゃんとけんかをして怖い気持ち

話の聴き方を確認

- うなずきながら
- 相手の方を見て

まきもちをことばにすると、あいてにつたわる。

身の回りに助けてくれる人は誰がいるのか知る。

- ・家族・親戚・友達・学校の先生
- ・地域の人 ・習い事の先生や友達

振り返りをする。

手紙を書くような気持ちで自分の気持ちを書く。



自分の心を知ろう～心の健康を保つ能力の育成～

目指す児童の姿

ストレスを感じたときの心身の状態を知るとともに、ストレスへの解消法について考えたり、自分に合った解消法を選択したりすることで、心の健康を保つことができるようにする。

倉敷市立長尾小学校 第6学年

本時のポイント

ストレスを感じたときの心身の状態を理解し、自分に合う解消法を知る。

困っているのは自分だけではないこと、まわりが助けてくれることを知る。

全体構想

素地作り

<学級経営>

- クラスのことは学級会で
- きらっとさんでいいところ見つけ
- 円陣を組んでクラスを一つに
- 毎日の手帳で一言交換日記

授業実践

学級活動「なりたい自分や性格」
自分の性格をインタビューして聞いたり、なりたい自分について考えたりすることで、自分の考え方の特徴を知る。

学級活動「感情のコントロール」
一つの出来事において感じる感情は人それぞれ違うこと知る。前向きに気持ちをチェンジするには、どうしたらよいかを考える。

学級活動
「ストレスとうまく付き合うために」

事後の活動

ストレス解消実践カード

- ・実際にストレスを感じた時に、自分で選んだ解消法でストレスを解消し、心の健康を保つ経験を積む。

ふりかえり
意外と私のストレスは不安とかうまくいかなかったことが原因だということが分かりました。解消法としては自分一人で行くのが一番いいと思いました。

成果と課題

学習を通して、多くの児童が、自分の経験を話し、友達の話を聞くことで、「自分だけではない」という安心感を獲得することができ、友達の様子の変化に気付いたり、互いが気を配ったりする意識を高めることができた。また、自分のストレスの原因を考え、自分に合うストレス解消法を知った上で実践カードを行ったことで、実際に自分の心の健康を自分で保つ経験ができた。

学習計画を改善し、子どもの実態に応じて、学びを継続的に行っていきたい。

学級活動「ストレスとうまく付き合うために」

アンケートをもとにめあてをつかむ
めあて：ストレスとの付き合い方を考えよう。

ストレスと感ずることを話し合う

○ストレスと感ずるものは...?

家族や友達とのけんか ゲームで負ける
うるさい音 怒られている人を見る

いっしょだ

そう感ずる人もいるんだな

ストレス発散の方法を考える
ストレスを感ずった心身の状態を知る



眠れない、悲しい、苦しい、お腹が痛くなる等...

あの時はストレスのせいだったのかも？

友達がこんな状態だったら...
声を掛けて話を聞いてあげたい

自分の言葉でまとめる
まとめ：ストレスとうまく付き合うには～
自分で解消できない時の方法を知る
心のテレフォン（無料相談窓口）の紹介

ふりかえり

⑨ ストレスの発散を試みて、イライラとか不安と思っいる人が増えただけじゃないことが分かりました。だから友達を大まかにしたり、家族も大切に（して、私もなるべくストレスをなくしていけたらいいなと思っいました。

自分も相手も大切にするコミュニケーションのとり方

目指す児童の姿

自分の考えを表現する力を身に付け、互いに話を聞き合う意識を高めることで、自分も相手も大切にしたコミュニケーションをとることのできる児童の育成を目指す。

全体構想

素地づくり

学級経営

- ・はなまる貯金
- ・道徳授業の掲示
- ・すてきな行動+価値語掲示
- ・クラスじまん
- ・すごろくトーク
- ・「実はわたしは」

実は…ぼく・わたし、

ゲームが得意🎮

アニメが大好き📺

果物が好き🍓

姉がいる

授業実践 (3時間)

学級活動「自分も相手も大切にするコミュニケーションのとり方」

「心のもやもやとの向き合い方」

- ・どんなときに、心のもやもやするか。
- ・どうやって、心のもやもやを減らすか。

誰にでも、心のもやもやすることはある。心のもやもやすることは、人によって違う。自分に合った方法で、すっきりさせるとよい。

うなずき

めを見て

ラストまで

いっしょう懸命

スマイル

「よりよい話の聞き方」

- ・友達の心をすっきりさせるためには、どんな聞き方をすればよいか。

相手の気持ちに共感しながら傾聴するとよい。『うめライス』がポイント。

「よりよい伝え方」

倉敷市立中洲小学校 第3学年

本時のポイント

アサーティブ(互いの気持ちを大切にした伝え方)のよさについて知る。

アサーティブな伝え方のよさについて考え、実践する力を育成する。

学級活動「よりよい伝え方」

アンケート結果を確認し、めあてに繋げる。

○友達と話しているとき、言いたいことが上手く伝わらないなと思ったことがある？どうやって伝えればよいか分からないことがある？

友だちにどんな言葉で伝えたらよいか、考えよう。

3つのキャラクターの伝え方を比べる。

感じたことを話し合う。

それぞれの伝え方の類型をキャラクターに例える。

威圧型
優柔不断型
アサーティブ型

ペアで役割演技をする。

互いにいやな気持ちにならない伝え方について考える。



- ・やさしい言い方
- ・相手の気持ちを考える
- ・自分の気持ちもはっきり伝える

どんな伝え方がよいか考える。

相手も自分もいやな気持ちにならない伝え方を考える。

まとめをする。

相手がいやな気持ちにならないように自分の考えを伝え、おたがいの気持ちを大切にするとよい。

成果と課題

初めは、自分の感情を表出することに対して抵抗感があり、進んで発言する姿が見られなかった。だが、本時では、伝え方をキャラクターに例えたり、ロールプレイを通して体験的に考えたりすることで、自分のことと置き換えて活動に取り組むことができた。相手の気持ちだけでなく自分の気持ちも伝えることが大切だと気付き、互いに嫌な気持ちにならない伝え方をしたいという意欲を高めることができた。今後も、まず教師が人権尊重の視点をもって活動に取り組み、互いのよさを認め合ったり、伝え方・聞き方に気を付けて過ごしたりすることで、自分も相手も大切にしたコミュニケーションをとることのできる児童の育成を目指していきたい。

気持ちと仲良くなるう

目指す児童の姿

自分の気持ちを相手に上手く伝えたり、怒りをコントロールしたりすることで、より良い人間関係を築くことができるようにする。

全体構想

素地づくり

学級経営

- ・ありがとうみつげ
- ・今日のグッジョブ
- ・読み聞かせ
- ・学級目標の振り返り（月1回）



授業実践

学級活動「気持ちと仲良くなるう」

学級目標の振り返り

- ・学級目標を振り返り、学級の良いところや、課題を見付ける。

優しい、遊びに誘える

トラブルが多い、助け合えていない

気持ちの言葉を知ろう

- ・気持ちを表す言葉を知り、自分の気持ちや人の気持ちがそれぞれ違うことに気付く。

気持ちが出てくる仕組みを知ろう

- ・同じ出来事が起きてても、物事の捉え方で出てくる気持ちが違うことに気付く。

自分の気持ちを上手に伝えよう

- ・自分の気持ちを相手に伝えるメリットを知り、上手な伝え方を考え、実際に練習する。

怒りと仲良くなるう

- ・怒りの性質について知り、怒りのコントロール方法を実際に練習する。

成果と課題

本実践を通して、学級の雰囲気良くなった。トラブルが多く助け合えていなかったが、友達を温かく受け入れたり、助け合ったりする姿が見られ、ポジティブな発言や行動が増えた。また、児童たちもそのことを実感しており、学習したことを能動的に活用する姿が印象的であった。一方で、規範意識が高まった反面、人を許す寛容さに課題が出てきたため、今後も系統的・継続的な指導をしていき、より良い人間関係を築くことができるように支援していきたい。

倉敷市立児島小学校 第1学年

本時のポイント

出来事から気持ちが出てくる仕組みを理解する。

自分の捉え方について振り返る。

学級活動「気持ちが出てくる仕組みを知ろう」

めあて：どうして出てくる気持ちが違うのか知ろう

1. 気持ちが出てくるまでの仕組みを知る。



2. こんなときどんな気持ち？

- ・お昼休みに友達と外で遊ぶ約束をしたよ。

だけど、急に雨が降ってきた。

**人それぞれ気持ちや頭の中の声
が違うことに気付く。**



3. まとめ

気持ちが出てくるまえの頭の中の声が、みんな違う。

4. 頭の中の声の種類を知る。

諦めタイプ...「自分にできるわけない。」

ヒーロータイプ...「それは正しくない！」

心配タイプ...「ああなったら、どうしよう。」

ぶんぶんタイプ...「自分は悪くない！」など

自分の捉え方の癖に気付く。

5. 振り返り



気持ちが出てくる前に
頭の中の声が先に出て
くることがわかった。

振り返りクイズ (ICT)

互いの良さを認め合う学級づくり

目指す児童の姿

コミュニケーションスキルを身に付け、自分の困り感を伝えたり、相手の気持ちに寄り添ったりする力を育むことで、互いを認め合おうとする態度を育てる。

全体構想

素地づくり

- 全体での教育活動と学級経営
 - ・学級規律の確立
(ルールづくり・頑張ること等)
 - ・グッドビヘイビアカード
 - ・道徳科の時間

- 事前アンケート
 - ・児童の実態を把握
(規範意識・人権感覚等)

授業実践

- 学級活動「ルールの大切さ」
- 学級活動「がんばっていること
がんばること」
- 道徳科「なかよしだから」(友情)
- 学級活動「意見が合わない時」
- 体育科(保健)
「アサーションスキルトレーニング」
- 学級活動「自分の思いの伝え方」
- 学級活動「相手の思いの受け止め方」
- 学級活動「つらい時の心の向き合い方を考えよう」
困難なことに直面した時に辛い気持ちを軽減する方法について考える。

成果と課題

友達とトラブルになった時にどう対応すればよいのか、児童は優しい言い方をするなど、具体的な方法を身に付けることができた。以前に比べ相手への思いやりの言葉が増え、友達の良いことを見付ける行動が増えた。これまで自分の気持ちを伝えられなかった児童も、自分の気持ちを相手に伝えようとする場面が増えてきた。今後も相手の気持ちに寄り添い、互いを認め合う関係を深めていけるよう、引き続き指導を行っていきたい。

倉敷市立岡田小学校 第3学年

本時のポイント

困難なことに直面した時に気持ちが楽になる方法を理解する。

つらい時には話を聞いてもらうことも大切だと気付く。

学級活動「つらい時の心の向き合い方を考えよう」

め心がつらいときに気持ちが楽になる方法を考えよう。

事例を基に、つらい時の解決方法を考える。

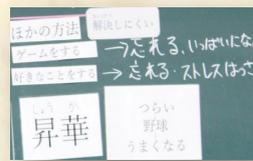
- ・話を聞いてもらう
- ・寝る
- ・ゲームをする
- ・好きなことをする

話を聞いてもらうロールプレイを行うことで、どのような気持ちになったかを考える。



- ・楽になった
- ・うれしい
- ・なっとくした
- ・言ってよかった

別のこと(ゲーム・遊ぶ・何かに没頭するなど)をしたらどうなるかを考える。



- ・楽になる
- ・忘れる

ま心がつらい時はだれかに相談してもよい。

わたしが思ったことは、友だちがもしこまっていたら話を聞いてあげたり、アドバイスを
してあげたりしようと思いましたが

デートDVから考えるよりよい人間関係作り

目指す生徒の姿

デートDVの事例を通して、互いが対等な関係であることを理解し、共に尊重し合う生徒の育成を目指す。

倉敷市立東中学校 第2学年

本時のポイント

デートDVとは何か、性暴力とは何かを知る。

よりよい人間関係を作るうえで大切なことは何かを考える。

全体構想

素地づくり	<p>【学校全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談 ・心と体のアンケート ・人権に関する動画を視聴しての感想 <p>【学級経営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すごろくトーク ・THANKS MESSAGE ・学校行事
授業実践	<p>「心訓を考えよう」(道徳科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「世界で一番 なのは」という問いに対する自分の意見を考える。また、意見交流を通して他者の考えを知り、多様な考えを尊重し合える環境作りを行う。 <p>「燃え盛る炎」(道徳科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病気と共に懸命に生きた主人公を通じて、生命を尊重する意識を高める。 <p>「デートDVから考えるよりよい人間関係作り」(学級活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デートDVについて知り、よりよい人間関係を作るために大切なことは何かを考える。
事後の学習	<p>性的マイノリティについて (学級活動)</p> <p>ネット・スマホとの上手な付き合い方(人権教育講演会)</p>

学級活動 「デートDVから考えるよりよい人間関係作り」

事例から、自分だったらどのように答えるか考えよう。

- ・友達も大切だから嫌だ。
- ・分かった、消すよ。
- ・好きだけどそこまではできない。

事例6

ちょっと携帯のLINE見せて

え、なんで？

見せてくれないの？もしかして他のライオンともLINEしてるの？

同じクラスの子くらいは…

ヒツジのことが好きだから、他のライオンとはLINEしてほしくないよ！俺は消してるし、ヒツジも消してほしい。

事例のうち、デートDVに当てはまると思うものを考えよう。

- ・人によってデートDVと考えるものに差がある。
- ・どこからがダメ・嫌と思うかは人によって違う。相手の気持ちをしっかり考えよう。

デートDVについてきちんと知ろう。

- ・暴力の種類にもいろいろある。

デートDVはなぜ起こるのかな？

個人 班 全体で考える

- ・愛情表現が間違っている。
- ・嫌われたくない気持ち。
- ・相手の気持ちを考えていないから。

よりよい人間関係を作るうえで大切なことは何だろう？

- ・相手の気持ちを考える。
- ・自分の考えをきちんと言う。
- ・相手と対等な関係を築く。

成果と課題

デートDVという言葉を知らない生徒も、「デートDVには手を出す以外の暴力もあることができた。」という感想を書いていた。性的マイノリティに配慮し、デートDVの事例では動物をデートDVの当事者としたため、生徒は自分事として答えやすかったようである。一方で、トラブルが起きた時に「相手と関係を断つ」という結論で終わってしまう生徒もみられたので、よりよい人間関係を築くための大切さをより深く考えさせていきたい。デートDVの学習を通じて、交際相手だけではなく友人との人間関係についても考えられる学習を継続していきたい。

自立した対等な関係を築くために～デートDVを正しく認識し、しないさせない態度を身に付けよう～

目指す生徒の姿

デートDVの当事者にならないだけでなく、当事者の気持ちを考えながら問題解決していくための、コミュニケーション能力や自己表現能力の育成を目指す。

全体構想

素地づくり

○友達の良いところ見つけ

○学級マングラ(目標)チャートの作成



○素敵な行動チャートの作成

○事前アンケートの実施

嫌な思いをさせた方は悪気が無い場合がある。

①適切な人間関係を築くために

- ・距離感を守るために嫌なことは嫌と言ってよい。
- ・距離感が守られないのは「一方の思い込み」が原因である時がある。

適切な自己表現のトレーニング

Iメッセージを用いて適切な自己表現をすることが大切。

性別における思い込みやジェンダー

男らしさ女らしさという思い込みやジェンダーについて知る。

デートDVの基本的知識

デートDVの基本的知識とその事例を学ぶ。

どんなアドバイスができるか考えよう

デートDVの当事者に対してアドバイスを考え、ロールプレイで伝え合う。

授業実践

成果と課題

本研究を通して、交際関係におけるデートDVの問題だけでなく、適切な人間関係の築き方についても学習することができた。また、本時に入る前に、事例を複数紹介することで、デートDVの実情や問題点の多様性を正しく認識することができ、本時のねらいに向かいやすかった。一方、本研究は生徒たちにとって興味深い内容であったが、デートDVを自分事に捉えて考えるのが難しかったようである。今後も学んだことを実生活に生かせるような継続的な指導が大切であると考えられる。

倉敷市立下津井中学校 第1学年

本時のポイント

デートDVの知識を踏まえた適切なアドバイスを考える。
当事者の気持ちを尊重しながら、適切な自己表現を行う。

総合的な学習の時間

「どんなアドバイスができるか考えよう」

デートDVの基本的知識を復習する

【心理的・身体的・社会的・経済的暴力】

めあてをつかむ

事例の中の被害者から相談を受けた時のアドバイスを考えロールプレイで伝える

活動① 彼氏Aくん(被害者)から相談を受けた場合

この間、机に置いていた僕のスマホを彼女が見て、2、3回後輩の女の子と連絡を取っていたことを知られたんだ。すると彼女が怒って「あたしのこと大切じゃないの」ってさ・・・結局後輩のアカウントも消されて今後は連絡も禁止になってしまった。大切な彼女を傷つけないために仕方ないよね

【アドバイスの視点】

- デートDVであることに気づかせる言葉
- メッセージをうまく活用する
- 被害にあった心の痛みに共感するような言葉

【生徒によるアドバイス】

恋人という関係でもBさんに友人関係を制限されるのは私は違うと思うな。「傷つけたくない」とBさんを気遣うのは素敵だけど後々辛くなるのはA君だよ、話し合ってみたら?

視点を生かしたアドバイスをクラス発表で共有

事例の中の加害者から相談を受けた時のアドバイスを考えロールプレイで伝える

活動② 彼女Bさん(加害者)から相談を受けた場合

先週、机に置いてあった彼のスマホを見たら、知らない女の子と連絡を取っていたのよ。彼は「たったの2、3回だ」って言うけど、ほんと信じられないわよね。アカウントも消したわ、私のことが大切なら私以外の女の子と連絡は取らないべきよね。

【アドバイスの視点】

- デートDVであることに気づかせる言葉
- Bさん(彼女)自身が、加害者であることを自覚していないことを踏まえ、一方的に否定せず、Bさん(彼女)の気持ちにも配慮する

【生徒によるアドバイス】

自分以外の女の子と会話されると不安になるよね。アカウントを消すんじゃなくて「私だったら～してほしい」と言えばBさんの不安もA君の自由も守ることができるのでは?

視点を生かしたアドバイスをクラス発表で共有

まとめをする

振り返りの時間

自他を守るための適切なコミュニケーション能力の育成

目指す生徒の姿

適切なコミュニケーションにより、自他の安全を守ると共に、対等で豊かな人間関係を形成することができる生徒の育成を目指す。

全体構想

学級経営（素地づくり）

- ・ Good Behavior Card
- ・ 安心できる教室環境づくり
- ・ みんなで人権を考える週間

学級活動

「身体的接触について」

- ・ 身体的接触についてメリット・デメリットについて考える。
- ・ 望ましい人との関わり方を学ぶ。

学級活動

「デートDVについて知ろう」

- ・ デートDVについて知り、デートDVを許さない姿勢を身に付ける。

学級活動

「適切なコミュニケーションにより、対等で豊かな人間関係を形成しよう」

- ・ 自他の安全を守るために、自分の気持ちの適切な伝え方を考える。

事後学習 学級活動

「自他の安全を守るために、利用できる機関を知ろう」

- ・ ワンストップ支援センター 等

成果と課題

授業実践を通して、言葉の暴力に頼らずに自分の気持ちを伝えるなど、自他を大切にできる態度が身についた。また、普段の学校生活でも攻撃的な言動が減り、お互いの気持ちを理解しようとする姿勢で相手に伝えようとする生徒が増えてきた。今後の課題として、デートDVを決して許さない・してはいけないという態度を育む指導を継続すると共に、自他を傷つけないように適切に自分の気持ちを相手に伝えるコミュニケーションスキルについても指導していきたい。

倉敷市立船穂中学校 第2学年

本時のポイント

デートDVを許さない態度を育てる。
自他の安全を大切にし、互いを思いやる伝え方について考える。

学級活動

「適切なコミュニケーションにより、対等で豊かな人間関係を形成しよう」

めあて **対等で豊かな人間関係を形成するために大切なことは何か。**

交際相手の所持品を無理矢理奪おうとする動画を見て、デートDVになってはいけないという前時の学習内容を思い出す。

【奪おうとする人の気持ち】

相手の気持ち
 ・自分のものにしたいかた。
 ・別れたかた。
 ・たかからそいつかた。
 ・たかものかた。

相手のものを所有することで、愛されていると感じることができる。

自他の安全を守るために、どのように自分の意見を適切に伝えるか考える。



- ・ 目的を達成するうえで、攻撃的にならないように伝え方を工夫させる。
- ・ 全体で共有させ、より良い手立てを考えさせる。

【生徒の意見】

怒りを抑えて話す（怒りに任せて話すとも相手に傷つけるかも）（怒りをぶつけることにもなる）。一旦落ち着いてから説明する。

まとめ **攻撃的な言動ではなく、互いの気持ちを理解しようとする姿勢で、意見を相手に伝えることが大切である。**

振り返りをする。

「きまり」から考える人権 ～適切な校則改正を目指して～

目指す生徒の姿

きまりについて多面的・多角的に考え、遵守する態度を身に付けられるようにする。また、自他の人権を尊重することで、自身を取り巻く様々な課題に真剣に向き合う生徒を育成する。

全体構想

多様性を認め他者を尊重する学習

- ・絵本や童話をつかった人権学習



出典 「ぼくたちはなぜ、学校へ行くのか。」 作 石井光太(ポプラ社)



出典 「みえるとかみえないとか」 作 ヨシタケシンスケ (アリス館)

- ・道徳科授業や学級活動での学習
 - 「給食残量ゼロへの取組」
 - 「ふわふわ言葉ちくちく言葉」等
- ・帰りの会、学級通信での取組
 - 「班会」「今日の注目選手」
 - 「学級通信『おにぎり』」等

自由・権利・ルールについて考える

【学級活動】「校則改正案」を考えよう
校則を見直すために、身の回りにあるきまりがなぜ生まれたのかを考え、根底にある人権意識について考えよう。

【学級活動】「校則改正案」を考える
校則改正案を検討することで、きまりの本質に気付き、自分の考え方や生き方について見つめ直す。

【学年集会】
現行の校則について取り上げ、存在意義について考える。

成果と課題

本実践を通して、生徒同士が呼び掛けをし合うなど、きまりを自ら守ろうとする姿が見られるようになった。多くの生徒が多様性に対して寛容になり、他者を尊重しようとする意識が高まっている。また、きまりだけでなく社会の様々な課題について、その本質を多面的・多角的に捉えようとする素地ができたように思う。しかし、主たる活動へ至るまでに学習する内容が多く、学びを深めるためには、時間数の確保が課題となる。今後、この取組を実際の校則見直しに生かしていきたい。

倉敷市立福田南中学校 第1学年

本時のポイント

身の回りにあるきまりに着目し、その根底にある人権意識に気付くことができる。

物事の本質をとらえる意識や他者の人権を尊重する態度を身に付けることができる。

学級活動『校則改正案』を考えよう

1. 校則改正案を提案する(個人)
2. 身の回りのルールから、きまりをつくるために必要なポイントを見出す



3. きまりの根底にある人権意識に気付く
4. 校則改正案を再検討する(グループ)
5. 全体で校則改正案を吟味する(全体)



6. 自身の生き方について考える

改正案 「男子は全員、長さ1cm以下の丸坊主にしよう」

- ✗ **手段の相当性** 丸坊主にしたところで、強弱がなかったり、コミュニケーションが取れなくなるわけではない。むしろ、丸坊主にするだけで人間にできることがなくなる人がいるかもしれない。
- **明確性** 男子が全員丸坊主なので、例外もなく、違反の解釈がない。また、1cm以下と基準が明確で判断がぶれない。
- ✗ **平等性** 全員が同じ髪型なので、平等であるように思われるが、顔の形や手前の髪、皮膚の質などの特性がある人にとって、精神的、健康的に平等性が確保できない。また、女子の髪型が示されていない。
- ✗ **手続の公平性** 性別や属性を指定することに配慮がない。また、髪を伸ばすことでヘアドネーション等に社会に貢献しようとする個人の意思を無視している。

7. まとめと振り返り

・校則はいらなと思っていましたが、その大切さがあった。
・いろいろな人たちの思いや立場を考え、すべての人の人権が守られるべきだと思った。



素
地
づ
く
り

授
業
実
践

他の自治体における生命（いのち）の安全教育の取組

令和5年11月に開催された「生命（いのち）の安全教育全国フォーラム」では先進的に取り組んでいる自治体から活動の紹介がありました。倉敷市も、先進事例を参考に実践を積み重ね、成果を市内学校園にさらに広めていくことが必要だと考えています。

千葉市の取組

千葉市では、子どもへの性暴力防止対策をいくつか取り組んでいます。一つ目は学校内で死角を作らない環境整備を毎年4月に実施、二つ目は4月を「生命（いのち）の安全教育月間」とし、小・中・高等学校で実施内容が統一されたプログラムを実施すること、三つ目は児童生徒が助けを求めるときの仕組みを充実させ、低学年の子どもでもSOSを出せるよう、学校、公民館、ホームページから相談できるようにしていることです。安全教育は繰り返すことで定着を図るため、この取組を毎年行っています。

東京都の取組

東京都は、「生命（いのち）の安全教育」を、安全教育で身に付ける力は「危険を予測し回避する能力」であると定義し、加害者にならないための力も大切であるとしています。具体的な事業としては、「生命（いのち）の安全教育」指導資料を東京都教育委員会がデジタルブック形式で作成し配信することで、新たに実践する学校でも大切な内容を押さえられるような工夫がされています。また、すべての教員を対象とした学校安全教室指導者講習を実施しています。

大阪市の取組

大阪市では、令和3年度より「生命（いのち）の安全教育」推進事業を展開しており、先進的な取組を進める学校を実践校として選定し、実践内容を事例集としてまとめ、他の学校への普及や共有に活かしています。令和5年度の実践では、保護者参観の授業で取り扱うことで、保護者の協力も得た取組へ拡大させていこうとしています。保護者からも、話しづらいテーマを取り上げてもらったので、親子間の会話がしやすくなったとの感想が挙がっています。



参 考 図 書

- 『教師にできる自殺予防 子どものSOSを見逃さない』
高橋聡美 著 教育開発研究所 2020年
- 『世界の学校予防教育』
山崎勝之 戸田有一 渡辺弥生 編著 金子書房 2013年
- 『学校における自殺予防教育のすすめ方 だれにでもこころが苦しいときがあるから』
窪田由紀 シャルマ直美 長崎明子 田口寛子 著 遠見書房 2016年
- 『学校現場から発信する 子どもの自殺予防ガイドブック いのちの危機と向き合って』
阪中順子 著 金剛出版 2015年
- 『学校における自殺予防教育プログラムGRIP 5時間の授業で支えあえるクラスをめざす』
川野健治 勝又陽太郎 編 新曜社 2018年
- 『子どもたちに“いのちと死”の授業を 学校で行う包括的自殺予防プログラム』
相馬誠一 伊藤美奈子 編著 学事出版 2020年
- 『基本的自尊感情を育てるいのちの教育 共有体験を軸にした理論と実践』
近藤 卓 編著 金子書房 2014年
- 『知っていますか？ 自殺・自死防止と支援 一問一答』
特定非営利活動法人 国際ビフレンダーズ大阪自殺防止センター編著 解放出版社 2014年
- 『子どもの権利ってなあに？』 アラン・セール 文 オレリア・フロンティ 絵
福井昌子 訳 反差別国際運動(IMADR)監訳 解放出版社 2020年
- 『学力テストで測れない非認知能力が子どもを伸ばす』 中山芳一 著 東京書籍 2018年
- 『聞く・話す・伝える力をはぐくむ クラスが変わる！子どものソーシャルスキル指導法』
岩澤一美 著 ナツメ社 2014年
- 『子どもの逆境に負けない力「レジリエンス」を育てる本』
足立啓美 鈴木水季 著 法研 2022年
- 『授業で使える「生命の安全教育」事例集 中学・高校編』
水野哲夫 著 子どもの未来社 2023年
- 『デートDV予防学』 伊田広行 著 かもがわ出版 2018年

参 考 資 料

- 『生命の安全教育教材(小学校(低・中学年))・(小学校(高学年))・(中学校)』
文部科学省 2021年
- 『教師が知っておきたい 子どもの自殺予防』
文部科学省 2009年
- 『子供に伝えたい自殺予防 学校における自殺予防教育導入の手引』
文部科学省 児童生徒の自殺予防に関する調査研究協力者会議 2014年
- 『学校教育における自殺予防』 埼玉県教育委員会 2018年
- 『SOSの出し方に関する教育を推進するための指導資料』 東京都教育委員会 2018年
- 『岡山県自殺予防教育学習プログラム(小学校編)(中学校編)』
岡山県教育庁人権教育・生徒指導課 2021年
- 『人権教育指導資料 こころ～いじめ・自殺等の未然防止に向けて～』
岡山県教育庁人権教育課 2014年

参 考 資 料

『自殺予防教育 校内研修資料』 岡山県人権教育推進マトリックス会議 2019年
『人権教育指導資料 人権学習ワークシート集 上』
岡山県教育庁人権・同和教育課 2008年

本冊子のデータファイルはホームページ及び倉敷市教育委員会学校園事務ネットワークシステムに、関連する学習指導案等のデータファイルは倉敷市教育委員会学校園事務ネットワークシステムに登録されています。必要に応じてダウンロードしてお使いください。

倉敷市ホームページ

...本冊子のデータファイル

倉敷市 > 市の組織 > 教育委員会 > 人権教育推進室 > 人権教育実践資料 >

<http://www.city.kurashiki.okayama.jp/30449.htm>

人権教育実践資料9 主体的に安全に生きる児童生徒の育成

倉敷市教育委員会学校園事務ネットワークシステム

...本冊子のデータファイル、関連する学習指導案等のデータファイル

グループウェア > ライブラリ > 010 人権教育推進室 > 010-01 指導資料 > 002 実践資料 > 009 人権教育実践資料9 主体的に安全に生きる児童生徒の育成

- 00 人権教育実践資料9 「主体的に安全に生きる児童生徒の育成」
- 01 中洲小学校 第3学年「自分も相手も大切に作るコミュニケーションのとり方」
- 02 豊洲小学校 第1学年「自分の気持ちを表現できる児童の育成」
- 03 連島神亀小学校 第2学年「心ってふしぎ！～気持ちに寄り添う力を育てよう～」
- 04 児島小学校 第1学年「気持ちと仲良くなろう」
- 05 長尾小学校 第6学年「自分の心を知ろう～心の健康を保つ能力の育成～」
- 06 岡田小学校 第3学年「互いの良さを認め合う学級づくり」
- 07 東中学校 第2学年「デートDVから考えるよりよい人間関係作り」
- 08 福田南中学校 第1学年
「『きまり』から考える人権～適切な校則改正を目指して～」
- 09 下津井中学校 第1学年
「自立した対等な関係を築くために～デートDVを正しく認識し、しないさせない態度を身に付けよう～」
- 10 船穂中学校 第2学年「自他を守るための適切なコミュニケーション能力の育成」



令和5年度人権教育課題研究委員

中洲小学校	日比野 安希子	豊洲小学校	松澤 友美子
連島神亀小学校	赤澤 奏恵	児島小学校	田中 靖子
長尾小学校	原田 真琴	岡田小学校	大月 将史
東中学校	森川 摂	福田南中学校	岡崎 亮人
下津井中学校	泉 勇輝	船穂中学校	難波 聡太郎

人権教育課題研究事業について

学校教育に関わりの深い人権課題について実践的研究を進め、その成果を倉敷市内の各校園に広げることにより、倉敷市の学校園人権教育の推進に生かすことを目的に平成17年度より実施しています。

本資料は、学校園における実践に活用できるように、10校の人権教育課題研究実践をもとに作成したものです。

人権教育実践資料9 主体的に安全に生きる児童生徒の育成

倉敷市教育委員会 学校教育部指導課 TEL 086-426-3831
人権教育推進室 TEL 086-426-3803